

会 議 録	
会 議 名	令和 6 年度第 4 回真庭市子ども・子育て会議
日 時	令和 7 年 2 月 2 1 日（金） 1 9 : 0 0 ~ 2 0 : 3 0
場 所	真庭市役所 本庁舎 3 階会議室
出 席 者	<出席委員> 1 3 名 小畑委員、杉本委員、柿本委員、清水委員、庄司委員、 谷口委員、小谷委員(web)、苦田委員、難波委員、坂本委員、 樋口委員、大塚委員、二若委員 <欠席委員> 2 名 道満委員、鈴木委員 <事務局> 5 名 健康福祉部子育て支援課 吉原課長 健康福祉部子育て支援課 広岡こどもはぐくみ担当課長 健康福祉部子育て支援課 神庭こども家庭センター長 健康福祉部子育て支援課 二宗係長 健康福祉部子育て支援課 水島上級主事 <オブザーバー> 1 名 教育委員会学校教育課 田中課長 <委託業者> 1 名 株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング(PMC) 伊藤夏樹
傍 聴 者 数	<傍聴者> 1 名

次 第	1 開 会
	2 挨 拶
	3 議 題 (1) 真庭市こども計画（最終案）について
	4 報告・意見交換 (1) 「こどもはぐくみ応援プロジェクト 2025」について (2) 真庭市立幼稚園・保育園・こども園の休園について (3) 久世第二こども園（仮称）について (4) 放課後児童クラブの状況について
	5 そ の 他
	6 閉 会

1 開 会

（事務局 広岡課長）

定刻となりましたので、これより令和 6 年度第 4 回真庭市子ども・子育て会議を始めさせていただきます。本日委員 15 名のうち 13 名にご出席いただいております。過半数以上の出席がありましたので、この会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。

なお、オブザーバーとしまして、教育委員会学校教育課田中課長、計画策定業務を委託しております株式会社パブリックマネジメントコンサルティングの伊藤様がご同席しておりますので、ご承知おきください。それでは、ただ今から第 4 回真庭市子ども・子育て会議を開催いたします。

2 挨 拶

（小畑会長）

本日は議題が 1 つと、報告事項が 4 つございます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議 題

（1）真庭市こども計画（最終案）について 【資料 1】【資料 2】

～（事務局 二宗係長） 資料説明【資料 1】【資料 2】～

(小畑会長)

今のご説明を踏まえ、委員の皆様からのご意見を頂戴したいですが、いかがでしょうか。

(大塚委員)

前回の会議で素案が示された後、それを受けて議会や、意見聴取の機会があり今回、最終案が出たということですが、前回子ども・子育て会議で、いくつか意見が出たと思いますが、それについてどのように反映されたのかご説明いただきたい。あわせて、議会や他の意見聴取により変更した点を教えてほしい。

(事務局・二宗係長)

議会文教厚生常任委員会でいただいたご意見では、こどもたちが地域の取り組みに参加すること、学校と地域との繋がりを作ることが学習という側面もあるというご意見をいただきました。また、どういうこどもに育ってほしいかを理念の部分で記載が必要というご意見もいただき、73ページの第4章第1節の基本理念の説明に「真庭市総合計画で示される多彩で豊かな真庭の生活の実現に基づき」と、「地域の『人と人の繋がり』や『自然と共生する環境』という強みを生かし、地域全体でこどもたちの健やかな成長を後押しします」の部分を追記しております。また、88ページ、「学校給食を郷育の場と捉えた食育の推進」という記載を追記しております。いただいた意見で、追記した主な部分については以上となります。

(小畑会長)

ありがとうございます。「自然と共生」、今重視されている用語でもありますので、良いと思いますが、大塚委員いかがでしょうか。

(大塚委員)

前回子ども・子育て会議で、ワーク・ライフ・バランスの、「ライフ」について、庄司委員からも、「こどもまんなか」とはどういうことだろうという問題提起がされ、この部分についてなにかよい言葉を考えてほしかったと思う。

(小畑会長)

ありがとうございます。ワーク・ライフ・バランスについてディスカッションがあったことも記憶しております。そのディスカッションを踏まえた、修正、加筆した部分はありますか。

(事務局・二宗係長)

前回の会議でお示した計画の素案では、第5章の施策の柱の施策の内容の部分は、関係課と調整して追記するとご説明をしておりました。本日の計画案では104ページ「施

策の柱5「ワーク・ライフ・バランスとこどもを生き育てるための環境づくりの推進」、施策の方向性に、「子育てと仕事が両立できる環境整備（ワーク・ライフ・バランス）」の施策の内容の部分で、子育てを応援する企業の啓発や企業の意識改革に向けた取り組み、子育てしやすい就労環境作りを、実際に市の中で取り組む事業として取りまとめをしております。

（大塚委員）

施策については、実際子育て支援課で企業回りをされ、男性も育休が取りやすい環境作りで企業もすごく努力をされているのは承知しています。

ただ、言いたいのは「ライフ」が子育てだけではないということ。子育てだけではなくて、大人が大人としての生活、子育て以外の部分の生活も大事だと思う。

こどもまんなか社会の定義の中で、「生涯にわたってこどもたちが幸せになれるように」と書かれてあり、これは、こどもが大人になっても幸せになれるということは、今の大人も幸せでないといけないうことだと思う。行政が施策に取り組むにあたり、大人は子育てだけをしておけばよいということではなく、おそらく庄司委員は、こどもとの時間の大切さも言われたと思うのですが、その辺を計画に反映してほしい。

（小畑会長）

理念の部分について、大塚委員のご発言を受けて、庄司委員いかがでしょうか。

（庄司委員）

本当にこどもまんなかになっているのかと思うのは、毎日お母さんやこどもたちと接していて、私たちサポートしている側がついていけない部分があり、本当にこれでこどもたちが幸せになっていけるのかと思っている。それを前回言葉にさせてもらった。今している子育てはこどもたちが大きくなると結果は出てこない。その辺りも踏まえて大丈夫なのかと思っている。

（小畑会長）

どういうところを見て不安になるとか、本当にこれでいいのかと思うか、具体的に皆さんにシェアできるようなことがあれば、少し共有していただきたいのですがどうでしょうか。

（庄司委員）

「真庭で子育てをしますか」という話をする時、「私は真庭で子育てをしません」と言われるお母さんが何人かおられる。「なぜ？」と聞くと、「高校がない」と言われて、なるほどと思った。また、大きな公園、素敵な公園ではなく、ブランコだけでいいから親子でふらっと歩いて行って遊べて、すぐに帰ってこられるようなところがないと言われていた。鏡野や奈義に連れていけないといけないう話をお母さんたちから聞く。公

園についてはずっと言い続けているが、ゲートボール場などはたくさんできているけど、公園はできないという話になる。市もようやく昨年頃から公園について一生懸命してくださっている。ふらっと行って、親子で遊べるようなところがいっぱいあればいいというお母さんたちの願いを聞いている。真庭に定住して、真庭にいてよかったと思えるような、親子で楽しく暮らせる真庭であってほしいと思う。「真庭を出ていきます」という声や、うちには他県からお嫁に来たお母さんたちがたくさん来てくださるが、真庭にずっといようと思えないところがいっぱいあると感じてしまい、こどもたちにとってそれはどうなのかと思う。お父さん、お母さんが居場所として居たいと思えるところになればいいなと思う。

(小畑会長)

今の事例はハード面が十分ではないということだと思いますが、ハード面だけの問題でもないこともあると思います。学童の立場からいかがでしょうか。

(清水委員)

私自身が市外から子育てをするために真庭へ帰ってきた。以前は岡山市に住んでおり、子育てに向いていないと判断して他府県から来た嫁と一緒に家族4人で帰ってきた。この会議の委員になってから子育てがしにくいという話を聞き続けてきた。外を知っているからかもしれないが、自分自身がなぜ困っていないのだろうかと思うことがある。私自身が、子育てをしにくいと思っておらず、そんな人がなぜいるのか、逆に自分はなぜそう思わないのか。これが形にできたらと思いながらこの会議に出ていたんです。話を聞きながらも結局、自分自身が住んでいて満足しているし、私は真庭の北部の出身で、ものがないのが当たり前だった。近くに学校がないのが当たり前で、公共交通機関もないのが当たり前。遠くでも自転車で行くことも時代を過ごしてるので、市役所のあるこのあたりは私にとっては都会で、コンビニが歩いていけるなんて夢のような世界。なので親の感じ方だと思う。どれだけのものを求めているのか。私の求める子育て環境に足りていないものがあんまりないのだと思う。自分の子は自分で地域に連れて行って溶け込ませるんだというような気持ちを持っています。できるだけ子どもを連れて行って紹介して、何か悪いことしたら、いつでも引っぱたいてくださいと言って帰ったりするわけです。そういう風に地域に自分で連れていき、この地域に子どもを見させている。知ってくれている人が自分の地域にいる、道路歩いていたらあの子でしょっていうのを知ってる人がいるのは、満たされた気持ちを作っていると思ったりしていました。公園もあるけど、うちの子はそんなに公園で遊ぶタイプではなく、それもそれぞれだと思う。真庭市になくても、遊び行くがてら遠出をするのもありだと思う。公園よりも草むらに連れて行って遊ぶのも1つだと思う。都会には草むらはないし、大体はロープでくくられて入れないと思うと、自分は真庭にそれなりに満足してるというのもある。そんな中で子どもまんなかとはなんだろう、何を持って子どもがまんなかにあるというのか、周りの誰がどう判断するかで、立場によっても違うと思うんです。私の家庭では、ほぼ

こどもまんなか状態。こどもの予定に合わせて、親が自分の予定を繰り越している。ただ、それが苦にはなっていないので、こどもが大きくなって困らないために今自分は頑張っているという気持ちを持っている。ただ、それを持ってない人は、心苦しさや自分のこどもに我慢させながらなどいろいろな気持ちを持っているんだろうと思います。なので、親の幸せが現時点でこどもまんなかに 1 番の近道と思っています。このモデルケースみたいなものが、簡単な漫画の冊子であればイメージしやすいと思う。

（小畑会長）

「ライフ」というところから、保護者の子育て感、子育てに求めるものが、ハード面とか、学校を求める親御さんもちろんいて当然だとは思いますが。私も岡山市内に住んでいますが、公園があっても花火ももちろんできない、ボール遊びもできない、野球もサッカーも禁止、食べ物も食べられない。こどもたちはゲームをするために公園に行くというのが都市というか、岡山市の中の公園の一部分の現状でもありますので、公園を作れば解決することでもない、そんな感想を持ちました。真庭市は自然が多く、真庭市全部が公園という考え方もできると感じながら聞いていました。それを受けて、「ライフ」の部分について、保護者の生き方や働き方など幅広いですが、この辺りを追記していただくことができますか。

（樋口委員）

委員のお話を聞く中で、資料 73 ページの理念の下のところに追記してる部分で「真庭市総合計画で示されている、多彩で豊かな真庭の生活（まにわライフスタイル）の実現に基づき」というところでこの辺は追記されてます。その下の文章では、こどもにとって最も良いことは何かという、これが本当にこどもだけではなくて、先ほどもお話があったように、親の幸せがこどもの幸せにつながることであるでしょうし、地域の人と人との繋がりや自然と共生する環境ということを実際には追記してあります。ここで読み取るのは非常に難しいかもしれませんが、今言われた話の中身は、ここの中に集約されている部分と思ってます。

（小畑会長）

樋口委員が言われたように読み取れなくはないですが、説明があるので、その辺り市民が見て、真庭市が強く考えていることを伝えるためにもう少し追加があってもいいように思います。改めて大塚委員いかがでしょうか。

（大塚委員）

樋口委員の説明でなるほどと思いましたが、やはり少し追加してほしいです。

（小畑会長）

ありがとうございます。他の委員の皆様、いかがでしょうか。

（苦田委員）

お話を聞きしていて、親が「ここ良いとこないよな、遊ぶとこないよな、遊園地ないよね」とこどもに言っていると、こどもも「真庭に居ていいところ1つもないんじゃないか」と思うし、清水委員みたいに「こんな素敵なんだよ」と言えば、こどもにとっては素敵な良いところなんです。だから、親の考え方かなと思う。こどもが育つか育たないか、地域の人に渡してもいいと思う。ちょっと見ててとか。孤立しないようにしてあげるのが1番。都会から帰って相談する人がいなければ、負担を感じる。けれど、みんな子育てしてるんだと言えば親の負担も少なくなる。みんなで、地域で、行政で、その親たちを孤立させない、協力してもらえという体制作りをしていくのが必要。ここがあると教えていただいてもそのノウハウがわからない。いろいろな情報をあげるのが必要。情報をあげて、どのようにして使ってもらうか。親が困っていてもみんなが助けてくれるという思いは、こどもが幸せな方向に進むと思う。結局、こどもまんなかは、大人の考え方なんだと思うんです。

（杉本副会長）

お父さん、お母さんは本当に忙しくて、今の社会で、こどもに関わることが本当に少ないんだと思う。その中におじいちゃん、おばあちゃんがいて子育てをされるとまだちょっと違うような感じがする。お父さん、お母さんも忙しく働いていて、こどもの満足や性格が変わる。色々とサポートをしてあげないといけないけど、地域でのサポートをどのようにしていけばよいのかも真剣に考えていかないといけないと思う。忙しくてこどもに接する、したくてもできない、そんなところも考えなければいけない。

（小畑会長）

親の生活の満足度が、こども、子育てに重要ということだと思いますので、その辺り追記をご検討いただくということでいかがでしょうか。

（事務局・広岡課長）

73 ページ理念の下にもう少し具体的な表現を追記するということでよろしいでしょうか。

（小畑会長）

大塚さんどうですか。

（大塚委員）

その基本理念の前のページにワーク・ライフ・バランスという項がある。「こども、若者、子育て家庭をとりまく課題」の欄ですけれども、ここにも親の生活、ワーク・ライフ・バランスの「ライフ」とは何か、「ライフ」のところにどういう課題があるのかなど考

察が欲しいと思います。

（小畑会長）

72 ページのところについてのご提案なんですけれども、いかがでしょうか。

（事務局・広岡課長）

検討させていただきます。

（小畑会長）

検討いただくということですが、本日、この会議で計画案の一定の採決をお願いしたいと思っています。追記内容は、私の預かりということにさせていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

《委員皆了承》

（小畑会長）

それでは、責任を持って預からせていただきます。

ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。

（難波委員）

こども計画の策定で、こどもまんなか社会の実現を目標にして作っていく中で、最初から思っていたことは、この会議に当事者のこどもが参加していないこと。こどもまんなか社会について人によって考え方が違うと今我々大人が色々話をしてるけれど、こどもたちが一体どういう風に思っているのか。もしかしたら、大人が考えるこどもまんなか社会とこどもが考えるこどもまんなか社会が違う部分があるかもしれない。そういう意味で、こどもたち自身のまちづくり、真庭市について考える機会や、それを通じて自分自身を振り返ってみたり、自分の夢や希望を語り合っ、それを実現するための取り組み、こどもたちが参画していける取り組みをしていくことが大切で、将来、真庭市を支えていく人材を育てていくことにも繋がっていくと思う。81 ページ第 5 章の施策の展開の中で、具体的にこどもたちがいろいろな活動や取り組みに参加できる機会を作っていくことが大切だと思う。こどもたちが自分の考えや意見を発信して、自分たちが主体的になって取り組んで参画していけることが大切と思いました。

（小畑会長）

難波委員からお話をいただいて、その通りという一方で、こどもの意見として、小学生を含め中学生、高校生との座談会、子育て中の保護者からの意見を聞く機会をこれまでももまれて、その結果がこの計画案に反映されているということでもよろしいでしょうか。

（事務局・広岡課長）

67 ページのとおり、12 月に高校生、大学生が幸せを真庭で考えるワークショップをしまして、それぞれのグループからの意見を記載しています。高校生もしっかり考えを持っていますので、大人と対等に扱ってほしいという意見、自分たちの意見をしっかり聞いてほしいという意見、大人との繋がりを持ちたいという意見もあり、いろいろな場面、座談会やワークショップなどの後、大人と繋がるような場を持ちたいというようなこともあり、若者が安心して参加できる対話の場がもっとあるといいという意見がございました。それを受けて、5 章に座談会なども入れてこどもたちとの話し合いのできる場を作りたいと来年度思っているところです。

（小畑会長）

こどもの生の声を聞くことは非常に大事なことでと思います。ただ、聞くだけではダメで意見を我々大人が理解し、展開していくことが大事だと思う次第です。二若委員いかがですか。

（二若委員）

私たちの時と比べると今はこどもをすごく大事に育てていると思う。親は本当に仕事が忙しくて、こどもと遊んでやれなかったのは私たちの時代のことで、今は皆さんこどもまんなかに育ててると思います。

（小畑委員）

大事にすることの肯定的な意味と否定的な意味、両方あるということを、日々感じているところです。柿本委員いかがでしょうか。

（柿本委員）

この計画は、多方向から考えながら作られていて、これだけ実行するのは大変だと思います。私たちも現場で計画を立てておりますが、それを実行すること、計画を立てるまではできるのですが、それを実行に移すことは本当に大変なことだと実感している。関連する計画がたくさんあり、連携していくことが大事なことでと思います。

園の現場で過ごしていて、計画案を読んだ時に、こどもまんなかは幼児期のこどもたちのことを想像しますが、病児保育や誰でも通園制度など、親にとっては便利だけれど、こどもにとってはどうなのかと思うこともあります。しかし、そういうところを助けないと保護者が安心して子育てができなという、裏腹な思いも感じました。私の現場でも思うことで、こどもの幸せと大人の幸せを常に考えていて、こどもを幸せにしてあげるためには大人も幸せでないといけないと思っているので、保護者支援を肝においてやっていけないといけないと思っている。保護者はこどもを育てることが楽しいと思って、こんなに可愛い子はいないと思ってる人もいれば、子育てを苦しんでいる、悩みながら、毎日毎日、今日はこういうことがあったと思いながら、悲観的に感じてしまう保護者も

いる。そういう人にこそ声をかけたり、話をしたりして、少しでも子育てについて悩みが言える、解決できなくても、しっかり悩みを聞くことで助けてあげられたり、気持ちが楽になったりと、大事なことだと思います。そういうことを丁寧にしていくことで、子育てしてよかったと思える保護者になると思いながら毎日過ごしています。

(小畑会長)

ありがとうございます。谷口委員お願いしてもいいですか。

(谷口委員)

私は要保護児童対策地域協議会の関係者として出ていますが、楽しく子育てしてる家庭はいいですが、苦しめる家庭の相談窓口、本当に些細なことでも気軽に相談できるような場所、人がいればいいと思う。「誰に相談しやすいか」という話が出たことがありますが、保育園の先生は、保育園にお母さんが送ってきて、お父さんが迎えに来て、おじいちゃんが送ってきて、おばあちゃんが迎えに来てみたい、いろいろな家庭の状況によってやりくりがわかる。それで、先生に困りごとを相談する。こども園や保育園の先生は話しやすいという答えを聞いたことがあります。保健師は母子手帳の頃からずっと関わるから、相談しやすいという話を、困り事のある家庭の人から聞いたことがある。私の立場から言えば、そういうところを強化すると、困りごとがある、怖いことがある、心配事がある、相談する人がいないというようなところは、話しやすい接点を持ってる人がサポートしたり聞いてあげたりすることだけでも安心する人もおりますので、そういう接点を持っている人の強化ができればいいと思います。

(小畑会長)

非常に重要なご意見だと思います。先ほどハード面の話がありましたが、やはり基本は相談しやすい環境の雰囲気作りが大事だと私自身も思いますし、保育士が1番相談しやすいということを学生にも伝えたいと思いました。

(坂本委員)

皆さんの話を聞いていてすごくいい言葉と思ったのが、「親の幸せがこどもの幸せに繋がる」。この会議で議論して出てきたフレーズなのでぜひこの計画に落とし込んでいただけたらと思います。

(小畑会長)

ありがとうございました。それでは、一応この計画案について採決させていただいてもよろしいでしょうか。

《採決にて委員皆了承》

それでは、この会議としての案とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、報告、意見交換に移らせていただきます。

(1)「こどもはぐくみ応援プロジェクト 2025」について説明をお願いいたします。

4 報告・意見交換

(1)「こどもはぐくみ応援プロジェクト 2025」について【資料3】

～（事務局 二宗係長） 資料説明【資料3】～

（小畑会長）

ご意見等ないので次に行きます。

(2) 真庭市立幼稚園・保育園・こども園休園について【資料4】

～（事務局 吉原課長） 資料説明【資料4】～

（小畑会長）

来年度は2園休園ということです。この件に関しまして、いかがでしょうか。

（苦田委員）

2園が休園ということですが、対象者のこどもはほかの保育園に行かれたのか、または、そもそも該当するこどもの数が0なのか。

（事務局・吉原課長）

その地域にこどもがいないというわけではなく、他の園を選ばれたりされたということで、入園の希望がなかったということになります。

（苦田委員）

できたら大きいところ、友達がたくさん来て、こどもの居るところがいいという前提があるのかもしれないですね。よそに行かせばいいんだと言えば、必ずその小学校区に強く保育園、こども園がいるという考えばかりではないという認識なんですね。

（事務局・吉原課長）

小学校ですと学区等がありますが、保育園やこども園等につきましては、そういった学区もありませんので、保護者の方の仕事先の近くであるとか、そういう選択肢もありますので、こういう状況は今後もあると思います。

（苦田委員）

小学校の隣にはその地域の幼稚園があるということがありましたが、今はそういう考え方もないのかなと思い見させていただいた。

（小畑会長）

最近では保育園留学というものも流行っております。最近の若い保護者は、良い教育をしていれば全国どこからでもやってくるということを聞いておりますので、ぜひ他県からもたくさん来てくれるといいと思っている次第です。

（大塚委員）

140 ページの入園状況ですが、来年度についてお聞きしたいが、愛慈園と星のこども園の3歳児未満の受け入れが難しいのではないかという噂を聞きましたが、その辺いかがでしょうか。

（事務局・吉原課長）

入園の申し込みは一旦10月末で締め切りをしていますが、その後も随時募集をしており、はっきり決まっていない状況ですので、この場での答えは控えさせていただきたいと思います。

（小畑会長）

ありがとうございます。その他にございますでしょうか。では次に進めます。

（3）久世第二こども園（仮称）について【資料5】

～（事務局 吉原課長） 資料説明【資料5】～

（小畑会長）

久世第二こども園の設計ということですが、委員の皆様、ご意見や感想などございますか。

（柿本委員）

この新しい園に関しては、子育て支援課だけでなく、園長会でも色々検討しており、それぞれ保育教諭の意見も取り入れながら考えて作っているところです。

（小畑会長）

計画の88ページには、「学校給食を郷育の場と捉えた食育の推進や、乳幼児期から食育体験ができるよう保育施設や」というところがありました。

私が見る限り、体験が出来るとか案にはないように思うんですけれども、それについてはいかがでしょうか。

（事務局・吉原課長）

園の北側が久世校地の利用の中で農業のゾーンになっていますので、その辺りをしっかり活用して、そういう体験もできるようなことを考えていきたいと思います。

（小畑会長）

最新の研究によれば、5歳未満の農作業体験が感情の安定にも効果があるというデータも出ておりますので、ぜひ進めていただけたらと思います。

（大塚委員）

久世第二こども園は、事業費がすごく高いという話を聞きます。隈研吾が設計して、CLTを使用するからではないかという話をよく聞く。少し前、隈研吾建築の天井が腐ったとか、ネットに出ていた。市長は100年後も残るこども園を作ると言われていたが、その辺、耐久性との関係、実際どういう考え方なのかを聞きたいと思います。

（事務局・吉原課長）

現在、詳細設計をしているところですが、子育て支援課としましては、隈研吾事務所だからこうしないといけないとは一切考えておらず、しっかりと相談しながら進めています。噂が本当かわかりませんが、そういうことにならないような方法をしっかり検討するよう話をしております。建築費については、隈研吾事務所が決まる前に想定した事業費があり、真庭市の方向性として木材を使う、環境に配慮する設計にするということもあります。今の物価高騰で単価が上がっており、建設費は少し高いと言われますが、今の建築の状況でいくと特別高くはなっていません。

（大塚委員）

木材を使うと高くなると思いますが、隈研吾に対して若干不信感があります。

（小畑会長）

貴重なご意見ありがとうございます。

（谷口委員）

園の計画とは関係ないが、場所的に渋滞するけど、信号設置や交わし道とか、送迎のルート、駐車場は出入り口を別にしてできているようだけど、脇道から国道と接するところは考えてもらえるのか。

（事務局・吉原課長）

今年度、周辺の交通量調査をさせていただき、何が原因で渋滞するのか原因を突き止め

た上で国道の改良の要望をしていく方向になっております。

進入路につきましても、信号があった方が安全ということで、要望していく方向で進んでおります。それから、こども園に入る道を2車線に改良することで、交通の便が良くなる予定です。開園までに全てが間に合うことにはならないかと思いますが、そういう方向で考えています。

(小畑会長)

横断歩道についてもみんなが車で来るわけでもないでしょうし、その辺りも検討が必要と感じました。

(樋口委員)

補足として、1番最初にこども園が進んでいますが、久世校地の跡地の利活用については、その他のものも一体的に進んでいます。その中で、周辺の導線、道路の改良は、建設等々の話をしながらやっていますし、交差点、迂回路等も含めて、県への要望しながら進めています。現在、庁舎内で連携をしながら進めていますので、ご理解ください。

(4) 放課後児童クラブの状況について【資料6】

～(事務局 吉原課長) 資料説明【資料6】～

(小畑会長)

放課後児童クラブについて、いかがでしょうか。

(清水委員)

定員オーバーのところ結構多いですが、支援員の確保がとても大変です。1人確保したら1人やめるという状況。どこのクラブも支援員不足で困っていて、何かしら手を貸していただけることがあれば、お願いしたい。相談があったり、他の方からでもこういうことで協力できるというのを見せていただけたら、支援員はもう少しよくなると思います。

(事務局・吉原課長)

募集等、協力できることがあればぜひさせていただきますので、ご相談ください。

5 そ の 他

(事務局・広岡課長)

企業関係者との座談会を3月14日に開催いたします。企業における子育て支援を考えてほしいということで、ワークショップ形式でいろいろな課題解決の方法を一緒に考えながら、専門家を入れてアドバイスをもらうような内容を考えております。商工会通じ

て、チラシもお配りしていますが、お知り合いの経営者などいらっしゃいましたら、声かけをしていただけると助かります。よろしくお願いいたします。

6 閉 会

（事務局・広岡課長）

本日、今年度最後の会議となります。委員皆様の任期が3月で終了になります。これまでの期間中、皆様方には率直なご意見等いただき、心より感謝申し上げます。現在、来年度以降の委員皆様の構成を検討して、改めてお声がけをさせていただきます。今後ともご協力よろしくお願いいたします。また、皆様のおかげで、第1期のこども計画をここまで作り上げることができました。株式会社パブリックマネジメントコンサルティングの伊藤様にも本日お越しいただいておりますが、こちらからご無理も申し上げまして、分析等も追加をお願いしたこともあります。迅速な対応を常にしていただきまして、感謝申し上げます。今後ともご協力いただけたところがありましたら、よろしくお願いいたします。それでは、閉会の挨拶を杉本副会長にお願いいたします。

（杉本副会長）

皆さん、本当に色々な意見をいただきました。今のこどもは宝物で、そのこどものために一生懸命この会議を盛り上げていただきまして、皆さんのお知恵を拝借して、よいこども計画ができております。令和6年度の子ども・子育て会議は本日で終わりです。また4月から皆さんのお役にたっていただき、一生懸命この会議を盛り上げていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。それでは、皆さん、お気を付けてお帰りください。